

# AIDS UPDATE

No.41 2003.10.27

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線5581 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

## 広島市民病院院内エイズ講演会

広島市民病院は広大病院と同様に、中国四国地方のエイズ拠点病院です。院内講演会の案内が届きました。講師は愛媛大学医学部第一内科講師の高田清式先生です。愛大ではこれまで2例のHIV感染女性の妊娠・出産を経験されており、実際に役立つお話がいただけると思います。お誘い合わせの上お出かけになって下さい。(チラシ添付)

## 第17回日本エイズ学会学術集会

<http://www.secretariat.ne.jp/aidsgek17/>

第17回日本エイズ学会の学術集会が、2003年11月27日から29日、神戸国際会議場で開催されます。HPにはすでにプログラムが掲載されています。273の演題が採択され、およそ1200人の参加者が見込まれています。基礎医学、臨床医学はもちろん看護、社会的な支援、予防啓発など幅広いジャンルが含まれ、多くの患者・感染者も集まり、会場の周りでも幅広い交流が持たれます。

## 第17回日本エイズ学会学術集会

会期: 2003年11月27日(木)~29日(土)

場所: 神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

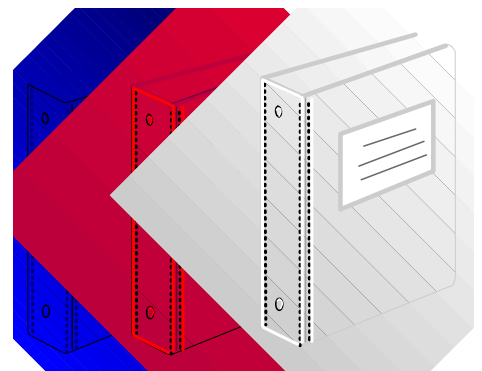
TEL: 078-302-5200(代) FAX: 078-302-6485

## 公開されている 厚労省エイズ研究版の報告書

[http://api-net.jfap.or.jp/siryou/siryou\\_Frame.htm](http://api-net.jfap.or.jp/siryou/siryou_Frame.htm)

厚労省はエイズについて多数の科学研究班を組織してしています。平成12~14年度の研究成果が、エイズ予防財団が運営する「エイズ予防情報ネット」に随時掲載されています。

タイトルを紹介しましょう。臨床医学では、HIV感染症の治療(岡 慎一)、妊婦のSTDとHIV母子感染の予防(田中憲一)、痴呆や神経障害(出雲周二)、日和見感染症の治療(木村 哲)などがあります。基礎医学では、HIV感染予防(竹森利忠)、エイズ発症阻止(岩本愛吉)、社会医学では、HIVの医療体制(白阪琢磨)、HIVの検査体制(今井光信)、普及啓発(我妻 堯)、非政府組織の活用(池上千寿子、大石敏寛、五島真理為)があり、疫学研究では、世界のAIDSの流行格差(島尾忠男)、HIV感染症の動向と予防介入(木原正博)、東アジアと太平洋沿岸地域(武部 豊)、性感染症とメディア(熊本悦明)などがあります。



☆ シリーズ ☆  
ナース河部のざっくばらん(No.2)

エイズ医療対策室 河部康子

こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか？

私が所属するエイズ医療対策室は薬害エイズの和解条項のひとつである「医療体制の充実」のもと1997年から始まりました。エイズ拠点病院体制は、HIV感染者がどの医療機関でも安心して医療サービスが受けられるようにすることが大きな目標です。

さて今回は5月に東京にある国立国際医療センターの中にある、エイズ治療研究開発センター(ACCと呼ばれている)に研修に行った経験を書きたいと思います。5日間の研修です。そんなに長い期間何をするのだろうという不安な気持ちと、HIVに関する知識が皆無だったので勉強したいという気持ちと、複雑な心境でした。3才になる息子は実家の母に託しました。

私が参加したACCの研修の参加者は医師2名・看護師4名・歯科医3名・歯科助手1名の計10名でした。年齢は20代後半から30代後半の方が大半でした。看護師は4名でしたが、二人の方が私と同じく4月からHIV専任として配属された方でブロック拠点病院から来られていました。



ACC研修プログラムの内容を書き出して見ますと・・・講義としては、「HIV/AIDSの歴史」「診療のポイント：初診時検査とデータ - の読み方」「抗HIV薬のレビュー」「日和見感染の予防」「患者理解」「HIV/AIDSの感染防御と暴露後の化学予防」「社会資源」がありました。この他、病棟実習・外来カンファレンス・事例検討回・はたき福祉事業団見学そして外来診療とコーディネーターナース活動見学、ロールプレイといった内容で構成され、これでもかというくらいびっしり詰まった研修でした。

初日は本当に講義ばかりだったのでさすがに疲れしました。研修は18時すぎになんとか終わり、その日は仲良くなった看護師4人で東京見学&夕食に出かけました。これから始まるハードな研修のこともまだ知らない4人でしたが...【続く】

さしあげます！  
「抗HIV治療ガイドライン」

■ 平成14年度厚労省研究班で岡 慎一先生たちがまとめられた抗HIV治療のガイドラインが発行されています(カラー、80ページ、非売品)。残部が約15冊あります。興味がある方にさし上げます。エイズ医療対策室にご連絡下さい。

<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]

[takata@aims-chushi.or.jp](mailto:takata@aims-chushi.or.jp)